

稲沢市 観光まちづくり ビジョン

第2次稲沢市観光基本計画



稲沢の“光”をつなぐ
観光まちづくり



計画の進捗状況（2021年度年次報告書）

稲沢市

1 成果指標と目標値の達成状況について

稲沢市観光まちづくりビジョンで掲げた成果指標について、計画最終年(2027年)の目標値に対する2021年の実績は下表のとおりでした。

■稲沢市観光まちづくりビジョン成果指標

項目	2017年 (基準値)	2021年 (実績値)	2022年 (中間目標値)	2027年 (最終目標値)
年間観光入込客数 ^{※1}	253.6万人	183.6万人	350万人	500万人
稲沢市の「観光振興」に対する市民満足度 ^{※2}	31.2%	32.6%	40.0%	50.0%
稲沢市に対して誇りや愛着を持つ市民の割合 ^{※2}	69.7%	66.1%	70.0%	80.0%

※1:2017年(基準値)は、2016年の愛知県観光レクリエーション利用者統計の数値(2,116,468人)に同年の「サリオパーク祖父江」の利用者数(419,507人)を加えたもの。

※2:2017年(基準値)は市政アンケート調査結果【2017年5月実施】、2021年(実績値)は市政世論調査結果【2020年8月実施(注:隔年調査)】による。

■年間観光入込客数^{※1}の推移

単位:(人)

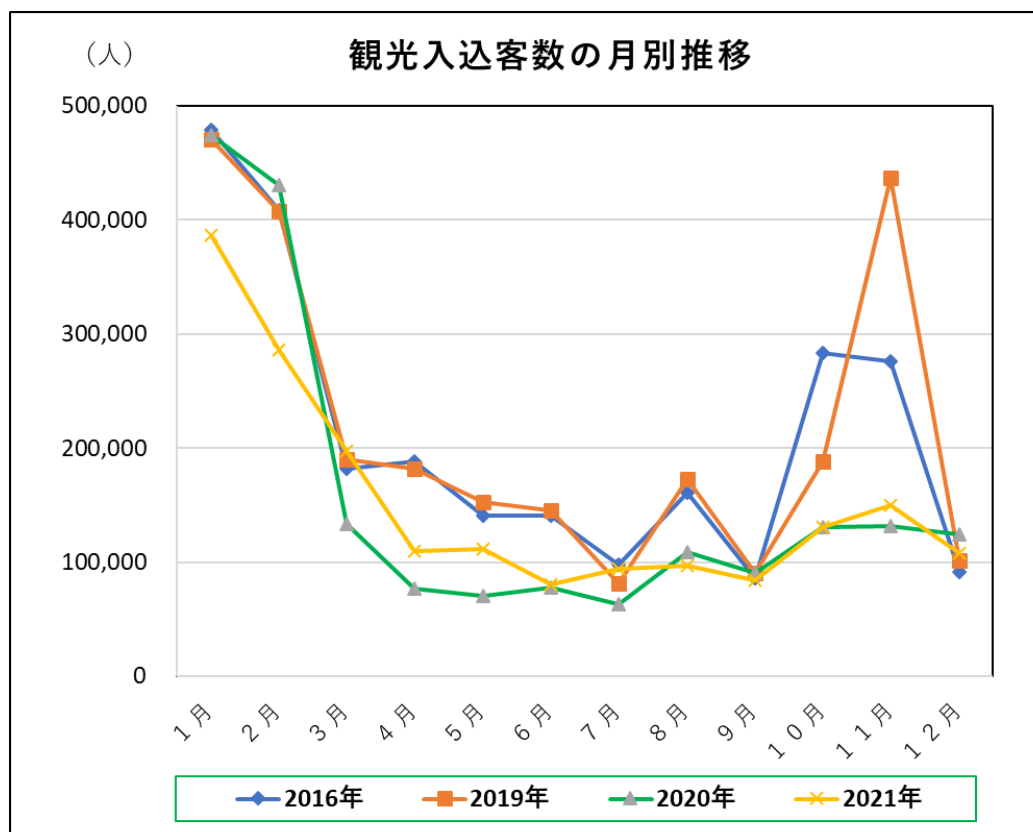
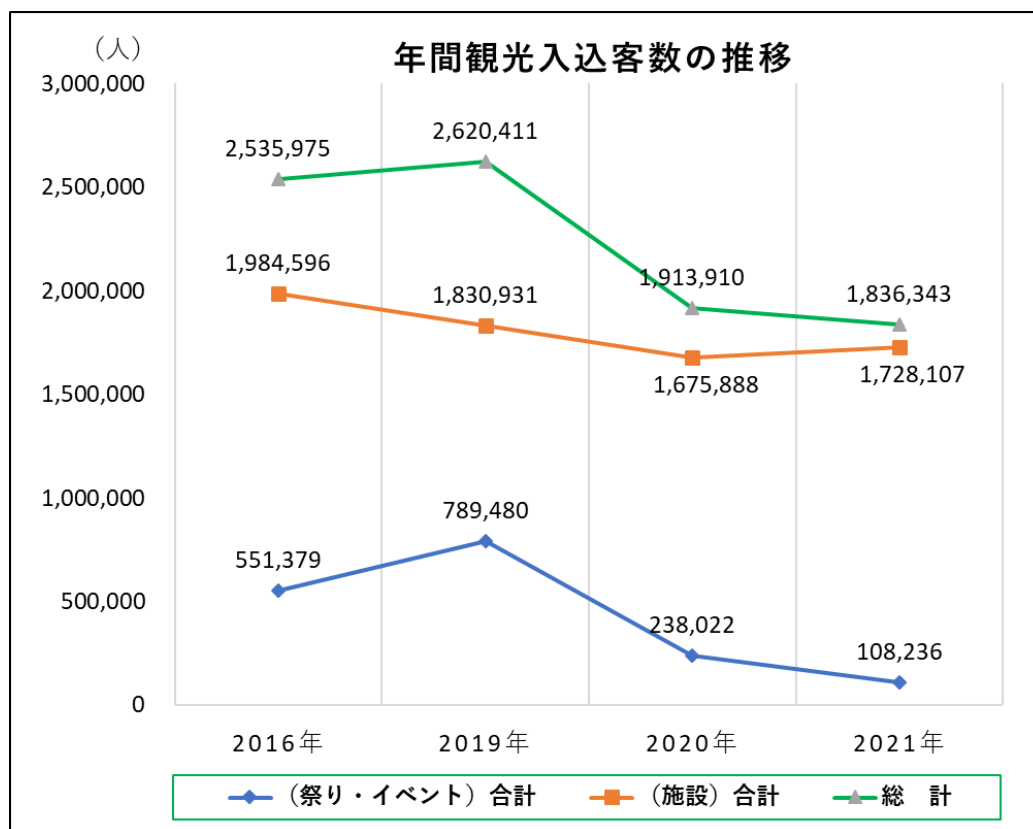
観光レクリエーション 資源・施設	2016年 (基準値)	2019年	2020年	2021年	
				客数	対前年増減数
国府宮はだか祭	80,000	250,000	200,000	60,000 ^{※4}	△140,000
いなざわ梅まつり	22,000	25,000	2,500 ^{※3}	7,600 ^{※4}	5,100
稲沢桜まつり	9,200	8,000	開催中止	開催中止	—
へいわさくらまつり ^{※2}	未計上	未計上	開催中止	開催中止	—
いなざわ植木まつり	49,000	41,100	開催中止	開催中止	—
稲沢あじさいまつり	57,000	54,000	開催中止	開催中止	—
稲沢夏まつり	45,000	56,000	開催中止	開催中止	—
稲沢サンドフェスタ	35,000	開催中止	23,522 ^{※3}	19,636 ^{※4}	△3,886
稲沢まつり	94,000	76,000	開催中止	開催中止	—
福祉まつり	5,179	4,930	開催中止	開催中止	—
そぶえイチョウ黄葉まつり	155,000	259,450	開催中止	開催中止	—
稲沢イルミネーション ^{※2}	—	15,000	12,000	21,000	9,000
(祭り・イベント)合計	551,379	789,480	238,022	108,236	△129,786
荻須記念美術館	41,815	50,711	32,193	48,461	16,268
尾張大國霊神社(国府宮)	1,054,754	883,849	938,566	974,993	36,427
矢合観音	102,000	75,000	61,000	53,000	△8,000
善光寺東海別院	366,520	403,500	251,000	206,500	△44,500
サリオパーク祖父江	419,507	417,871	382,198	391,610	9,412
豊田合成記念体育館 (エントリオ) ^{※2}	—	—	10,931	53,543	42,612
(観光施設)合計	1,984,596	1,830,931	1,675,888	1,728,107	52,219
総計	2,535,975	2,620,411	1,913,910	1,836,343	△77,567

※1:愛知県観光レクリエーション利用者統計の数値

※2：観光資源・施設の掘り起こしにより、2018年から「稲沢イルミネーション」を、2020年から「へいわさくらまつり」及び「豊田合成記念体育館（エントリオ）」【2020年9月27日オープン】を計測地点に追加。

<参考> へいわさくらまつり（2016年：3,500人、2019年：7,000人）

※3・4：新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う縮小開催。



■参考：その他の祭り・イベント、施設等への来訪者数^{※1}

単位：(人)

祭り・イベント、施設等	2019年	2020年	2021年
尾張の虫送り	300	開催中止	開催中止
こがしまつり	2,000	開催中止	開催中止
円光寺萩まつり	200	開催中止	開催中止
国分寺マルシェ	8,000	開催中止	開催中止
矢合十八番市	1,100	開催中止	開催中止
大塚性海寺歴史公園・性海寺のアジサイ観賞 ^{※2}		18,000	32,000
祖父江イチョウ黄葉観賞 ^{※3}		70,000	120,000
祖父江ぎんなんマルシェ ^{※4}	—	—	3,550
いなざわ観光まちづくりラボ企画・協力イベント ^{※5}	49	1,300	617
稲沢市観光協会モニターバスツアー	—	—	38
「い～な稲沢♪知ろう！楽しもう！稲沢の魅力」体験プラン	—	—	162
(祭り・イベント) 合計	11,649	89,300	156,367
明治なるほどファクトリー愛知	30,000	8,564	7,858
メタウォーター下水道科学館あいち	85,188	43,581	43,405
JA 愛知西産直広場 一色下方店	234,579	240,243	258,169
JA 愛知西産直広場 下津店	136,363	136,383	128,610
JA 愛知西産直広場 国府宮店	167,702	167,796	163,221
JA 愛知西産直広場 大里店	118,817	121,155	116,180
椿園	1,900	1,600	1,400
(施設等) 合計	774,549	719,322	718,843
総計	786,198	808,622	875,210

※1：愛知県観光レクリエーション利用者統計の対象に含まれない祭り・イベント、施設等で経年的に把握できるもの。

※2：「稲沢あじさいまつり」の開催中止に伴い計測。

※3：「そぶえイチョウ黄葉まつり」の開催中止に伴い計測。

※4：2021年11月下旬に開催された「祖父江ぎんなんマルシェ拡大版」の来場者数は、「祖父江イチョウ黄葉観賞」内を含むため除外。

※5：「稲沢イルミネーション」は愛知県観光レクリエーション利用者統計の対象イベントのため除外。

■参考指標①

項目	2018年度 (実績値)	2019年度 (実績値)	2020年度 (実績値)	2021年度 (速報値)	2027年度 (最終目標値)
市内観光消費額 ^{※1} (一人当たり)	2,287円	2,602円 ^{※2}	1,694円 ^{※3}	1,966円 ^{※4}	4,000円

※1：稲沢市観光に関するアンケート調査（「いなざわ植木まつり」「稲沢あじさいまつり」「そぶえイチョウ黄葉まつり」「いなざわ梅まつり」の各会場で来場者を対象に調査）による。

※2：新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「いなざわ梅まつり」会場での調査を中止。

※3：新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う「いなざわ植木まつり」「稲沢あじさいまつり」「そぶえイチョウ黄葉まつり」の中止決定により、各会場での調査を中止。「いなざわ梅まつり」会場でのみ調査を実施。代替措置として、「信長くん育成スタンプラリー」参加者に実施したWEBアンケート調査結果を適用。

※4：2021年11月末時点。新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う「いなざわ植木まつり」「稲沢あじさいまつり」「そぶえイチョウ黄葉まつり」の中止決定により、各会場での調査を中止。代替措置として、11月下旬のイチョウ黄葉シーズンに開催された「祖父江ぎんなんマルシェ拡大版」の会場（祖父江ぎんなんパーク）で実施したアンケート調査結果を適用。

■参考指標②

項目	2020年 (実績値)	2021年 (実績値)	2025年 (目標値)
稲沢市観光協会公式WEBサイトセッション数※1	76,573件	128,863件	200,000件※2

※1：セッション数とは、ユーザーがWEBサイトにアクセスした回数のことを表す指標で、セッションとは、ユーザーが特定のWEBサイトにアクセスしてから離脱するまでのことをいう。セッション数は「アクセス数」や「訪問数」とも呼ばれ、ユーザーが複数ページを閲覧した場合でも、セッションの回数が1回なら「1」とカウントされる。

※2：「第2期稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重要業績評価指標（KPI）に基づく目標値。



2 重点アクションプランの進捗状況について

「いなざわ観光まちづくりラボ」の推進



いなざわ観光まちづくりラボとは・・・

「いなざわ観光まちづくりラボ」は、稲沢市観光まちづくりビジョンに基づき、稲沢市の観光まちづくりを推進するため、2018年7月に設立された市民主体による実践組織。

稲沢市観光協会がファシリテーターとなりながら、市民や民間事業者、関係機関・団体、行政等、地域づくりの担い手の方々や稲沢市に愛着を持ってみえる方々の活動や思いをつなげ、ネットワーク化を図ることで、それぞれの役割やノウハウを活かし合える環境を整備し、稲沢市の特色を活かした観光・交流事業の創出や魅力の再発掘・再構築に取り組んでいる。

(1) ロードマップ

ロードマップ				
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
立ち上げ・運営	事業の企画・実施			
			自立に向けた検討	

(2) 2021年度の経緯・経過

PickUp

- ✓ ラボの運営を引き続き全体会議と運営会議の2本立てで行った。
 - 【全体会議】 新たなプロジェクトの提案や個々のプロジェクトに対する協力依頼など、メンバー間の情報共有と意見交換・交流の場
 - 【運営会議】 ラボのファシリテーターの役割を担う稲沢市観光協会とラボの中心メンバーがラボの運営方法を検討・協議したり、全体会議の開催に向けた準備・調整を行う場
- ✓ 全体会議を約2か月に1回のペースで開催（現地・オンライン併用）し、意見交換やプロジェクトの提案など、活発な情報交換を行った。また、稲沢市観光協会公式 WEB サイト内のラボメンバー専用交流ページを通じてメンバー間の情報共有を図り、コロナ禍においてもプロジェクト活動が行えるよう取り組んだ。
- ✓ ラボ活動（プロジェクト）に対する支援措置（支援金制度）を新たに設け、募集・審査した結果、2つのプロジェクトを採択した。

<支援プロジェクト>

- ・美濃路稲葉宿元気プロジェクト
- ・地域資源の見える化を図るプロジェクト

✓ 稲沢市観光協会が取り組む事業を魅力的かつ効果的に展開していくため、ラボメンバーに各種事業への参画を呼び掛け、個々の持つ知識や経験、ノウハウの活用に努めた結果、事務局とメンバー間の協働関係が深まり、メンバーのモチベーション向上や活動の活性化に繋がった。

<主な参画事業>

- ・「い〜な稲沢 ♪まるごと観光展」の開催
- ・「い〜な稲沢 ♪知ろう！楽しもう！稲沢の魅力」体験プランの実施
- ・「今も息づく信長の“大うつけ魂”を訪ねる旅」バスツアーの実施
- ・「稲沢の自慢スポットを巡る旅」バスツアーの実施
- ・「祖父江ぎんなんマルシェ」への出店
- ・愛知文教女子短期大学連携事業「着物の似合う街 いなざわ」の実施
- ・観光ボランティアガイドの育成
- ・街道観光事業(美濃路稲葉宿の活性化)
- ・SNSを活用した情報発信の強化(YouTube 配信等)

✓ 市民を中心とした観光まちづくりの更なる推進及び活動の活性化、ラボメンバーのスキルアップ及びメンバー間のネットワークづくり、新たなプロジェクトの企画立案及び継続性のあるプロジェクトづくりに繋げることを目的として、稲沢市観光協会主催で「実践！観光まちづくり講座」を新たに開設した。

① 会議等の開催状況

項目	開催日・会場	内容
第1回運営会議	2021年4月13日	・今年度の運営方法について ・第1回全体会議の開催に向けて
	稲沢市観光協会	
第2回運営会議	2021年6月25日	・第1回全体会議の開催に向けて
	稲沢市観光協会	
第1回全体会議	2021年7月6日	・各プロジェクトからの活動報告及び提案 ・事務局からのお知らせ及び提案 ①支援プロジェクトの募集について (いなざわ観光まちづくりラボプロジェクト 支援金制度) ②「実践観光まちづくり講座」の開設について
	稲沢市産業会館 1階・大会議室	

実践！観光まちづくり講座	2021年7月25日	『思わず”いいね”をクリックしてしまう！スマホで出来る夏の写真撮影&編集テクニック講座』 in 馬飼ビーチフェスティバル ・講師：坂口 義徳 氏 （プロカメラマン/ラボメンバー） ・参加者数：11名 ・参加費：無料
	サリオパーク祖父江 (馬飼ビーチフェスティバル 2021 会場)	
第3回運営会議	2021年7月27日 稲沢市観光協会	・第2回全体会議の開催に向けて
第2回全体会議	2021年8月6日 稲沢市産業会館 1階・大会議室	・各プロジェクトからの活動報告、協力依頼、提案など ・事務局からのお知らせ及び協力依頼 ①プロジェクト支援金の申請状況及び今後のスケジュールについて ②「実践！観光まちづくり講座」について
第4回運営会議	2021年9月29日 稲沢市観光協会	・第3回全体会議の開催に向けて
第3回全体会議	2021年10月6日 稲沢市産業会館 1階・大会議室	・各プロジェクトからの活動報告及び提案 ・事務局からのお知らせ及び協力依頼 ①プロジェクト支援金の採択について ・美濃路稲葉宿元気プロジェクト ・地域資源の見える化を図るプロジェクト ②「実践！観光まちづくり講座」の具体的な取組について ・基調講演 ＜講師＞大澤 健氏(和歌山大学経済学部教授/ いなざわ観光まちづくりゼミアドバイザー) ＜タイトル＞「観光まちづくりラボ」を何のために作ったのか？
第5回運営会議	2021年12月2日 稲沢市観光協会	・第4回全体会議の開催に向けて
第4回全体会議	2021年12月3日 稲沢市産業会館 1階・大会議室	・各プロジェクトからの活動報告及び提案 ・メンバーからの近況報告など ・事務局からのお知らせ及び協力依頼 ・グループセッション
第6回運営会議	2021年12月24日 稲沢市観光協会	・第5回全体会議の開催に向けて ・今後のラボ活動及び運営のあり方について

第7回運営会議	2022年2月18日	・第5回全体会議の開催に向けて
	稲沢市観光協会	
第5回全体会議	2021年3月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の振り返り(メンバー及び各プロジェクトからの活動報告) ・今後の活動に向けて ・大澤教授による講評
	稲沢市産業会館 1階・大会議室	

《その他》 事務局・グループ・メンバー間で随時ミーティングを実施。

■全体会議の様子



■「実践！観光まちづくり講座」の様子

～『思わず”いいね”をクリックしてしまう！スマホで出来る夏の写真撮影&編集テクニック講座』in馬飼ビーチフェスティバル～



② プロジェクトの活動状況（2022年2月末時点）

プロジェクト1 「季節を運ぶ手作り小物 四季の詩」

季節感のある手作り小物や地元産の新鮮野菜の販売、「いなざわの昔話」を伝える紙芝居の朗読や落語等を通じて地域の魅力を発信するとともに、人と人との輪を広げ、個々の持ち味が発揮できる、活気あふれるまちづくりを目指すプロジェクト。

【2021年度の活動実績】

- ◆稲沢市産業会館や美濃路稲葉宿本陣跡ひろばを会場として、ワンコインチャリティバザーを計4回開催。

<開催日> 2021年4月16日、6月16日、8月16日、12月16日

<内容> 手作り小物や地元産の新鮮野菜の販売、ポスター・パンフレットの展示（観光・歴史・文化）、ショータイム（腹話術、紙芝居の朗読、バイオリン演奏、落語など）

<来場者数> 218人（累計）

- ◆販売価格は基本ワンコイン（100円又は500円）とし、売上の一部は稲沢市社会福祉協議会へ募金。



プロジェクト2 「やわせ！てくてくウォーキング♪」

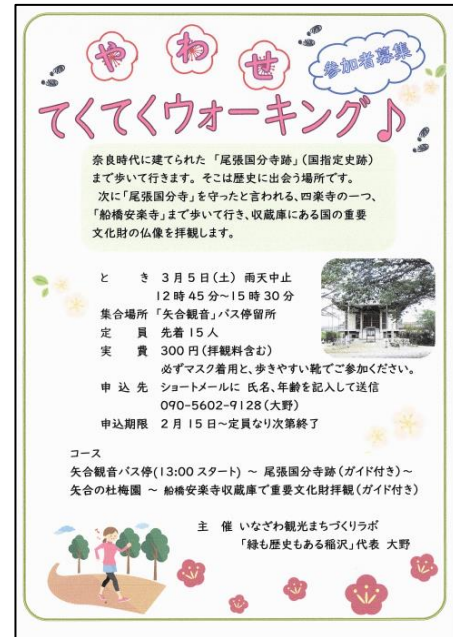
矢合地区内の文化財や名所をボランティアガイドと一緒に巡りながら楽しくウォーキングしてもらうことで、奈良時代から今日まで続く稲沢の古い歴史を体感してもらうプロジェクト。

【2021年度の活動実績】

- ◆「第16回いなざわ梅まつり」の協賛イベントとして開催予定。

<開催日> 2022年3月5日

<コース> 矢合観音バス停 ⇒ 尾張国分寺跡 ⇒ 矢合の杜の梅園
⇒ 安楽寺(船橋)



プロジェクト3 「つなごう つながろう 稲沢」

情報ポータルサイト「いいな ざわざわ」を通じて、市内各地に点在する稲沢の魅力を「発信」し「連鎖」させることで、稲沢の観光情報の集約を目指したプロジェクト。

【2021 年度の活動実績】

- ◆新規掲載数:6記事 (2019 年度:14 記事、2020 年度:5記事)
- ◆登録記者(情報発信者)数:24 人 (前年比1人増)

<いずれも 2022 年2月末時点>

プロジェクト4 「いなざわざわ season2 ～ラボ活動交流の場としての機能追加～」

多様な人材が集まるラボの活動は、活動時間や活動場所の設定が困難であること、さらにコロナ禍で皆が集まって会議を行うことに支障が生じていることから、今後の活動を推進していく手段の一つとして、オンライン環境を活用した情報共有及び意見交換を行える仕組みを構築し、活用していくプロジェクト。具体的には、「つなごう つながろう いなざわ」プロジェクトで運営している情報ポータルサイト「いなざわざわ」内にラボメンバー専用交流ページの機能を追加し、活用していくもの。

【2021年度の活動実績】

- ◆ 稲沢市観光協会公式 WEB サイトの「いなざわ観光まちづくりラボ」ページ内に設置。
- ◆ 参加者間の交流促進と情報共有のため、メンバー及び事務局の自己紹介、事務局からのお知らせ、会議記録動画を追加。



プロジェクト5 「美濃路稲葉宿元気プロジェクト」 NEW

「美濃路稲葉宿」御宿印の販売、地元小学生を対象とした御宿印手作り体験会や美濃路稲葉宿本陣跡ひろばを活用した賑わいイベントを実施し、稲葉宿周辺の活性化と歴史文化の伝承、美濃路観光の拠点づくりを目指すプロジェクト。

【2021年度の活動実績】

- ◆ 美濃路稲葉宿御宿印の作製と販売
 - ＜価格＞ 1枚 1,000円
 - ＜販売数＞ 限定 250部
 - ＜販売所＞ 美濃路稲葉宿本陣跡ひろば周辺の店舗
- ◆ 地元小学生を対象とした御宿印手作り体験会の実施
 - ＜実施日＞ 2021年10月19日
 - ＜実施場所＞ 稲沢市立稲沢西小学校
 - ＜参加者＞ 稲沢市立稲沢西小学校3年生児童(3クラス)

- ◆「い〜な稲沢♪まるごと観光展」(稲沢市観光協会主催)の開催協力
 - <開催日> ①2021年8月26日、②2022年2月23日
 - <開催場所> アピタ稲沢店 B館1階スターバックス前イベントスペース
 - <内 容> 御宿印手作り体験(小学生対象)
 - <参加者> ①22人、②5人
 - <参加料> 無料

- ◆「い〜な稲沢♪知ろう! 楽しもう! 稲沢の魅力」体験プラン(稲沢市観光協会主催)の実施協力
 - <実施日> ①2021年10月18日、②2021年10月28日、
③2021年11月6日
 - <実施場所> 美濃路稲葉宿本陣跡ひろば
 - <内 容> 御宿印手作り体験と美濃路散策
 - <参加者> 13人(累計)
 - <参加料> 1,000円

- ◆稲葉宿を歩いた象(モニュメント)の作製協力
(美濃路稲葉宿本陣跡ひろば周辺在住の有志が作製)

- ◆小沢和太鼓保存会「こども秋まつり」の開催協力
 - <開催日> 2021年11月3日
 - <開催場所> 美濃路稲葉宿本陣跡ひろば
 - <内 容> 和太鼓演奏、象のモニュメントのお披露目、美濃路と象のお話、
10年後に願いを込めたタイムカプセル封入など

- ◆地元小学生を対象とした美濃路散策の実施
 - <実施日> 2021年11月10日
 - <実施場所> 美濃路稲葉宿本陣跡ひろば ほか
 - <参加者> 稲沢市立稲沢西小学校3年生児童(3クラス)
 - <内 容> 美濃路と稲葉宿のお話、街道沿いスポットの散策(ガイド付き)

- ◆第14回稲沢再発見 稲葉宿を語る「美濃路の魅力を落語で語る」(足立学園総合研究所・稲沢市・稲沢市観光協会連携事業)の開催協力
 - <開催日> 2021年11月27日
 - <開催場所> 美濃路稲葉宿本陣跡ひろば
 - <内 容> 本陣寄席(美濃路稲葉宿創作落語)、紙芝居の朗読(稲葉宿の昔話)
※当日の様子をイベント終了後にオンラインで動画配信。
 - <来場者> 45人

- ◆美濃路稲葉宿元気マルシェの開催
 - <開催日> ①2021年10月16日、②2022年1月22日
 - <開催場所> 美濃路稲葉宿本陣跡ひろば
 - <内 容> ①手作り小物・地元の新鮮野菜の販売、ショータイム(腹話術、バイオリン演奏、稲葉宿のお話、紙芝居の朗読、美濃路稲葉宿創作落語)、御宿印手作り体験会など

②稲葉宿を歩いた象(モニュメント)の命名式、手作り小物・木製品・地元の新鮮野菜の販売、子どもたちが楽しめる縁日、ショータイム(和太鼓演奏、稲葉宿のお話、バルーンショー、美濃路稲葉宿創作落語、手話パフォーマンスほか)、御宿印手作り体験など

<来場者> ①200人、②260人



プロジェクト6 「地域資源の見える化を図るプロジェクト」

NEW

稲沢ならではの地域資源及び周辺市町の地域資源を掘り起こし、紙媒体や動画撮影、YouTube 配信等を通じてその魅力を「見える化」することで、観光プロモーションツールとしての活用を目指すプロジェクト。

【2021年度の活動実績】

◆稲沢市観光協会公式 YouTube チャンネルを通じて稲沢ならではの地域資源の魅力を発信。

<配信動画>

- ①稲沢サンドフェスタ(砂の造形展)における砂像制作過程
- ②「今も息づく信長の“うつけ魂”を訪ねる旅」バスツアーの様子
(勝幡城跡、椿園、稲沢サンドフェスタ(砂の造形展)、性海寺、尾張大國霊神社)
- ③「稲沢の自慢スポットを巡る旅」バスツアーの様子
(祖父江イチョウ黄葉散策、善光寺東海別院、稲沢フルーツ園、サリオパーク祖父江)
- ④美濃路稲葉宿御宿印手作り体験及び美濃路稲葉宿周辺散策の様子



プロジェクト7 「#で稲沢を盛り上げよう！」



ラボメンバーが Instagram のハッシュタグ(＃)投稿を使って稲沢市の魅力を率先して発信することで、情報の拡散効果を高めるとともに、ラボ活動の活性化や一体感の醸成、若年層の参画を目指すプロジェクト。

【2021 年度の活動実績】

- ◆ラボメンバー共通ハッシュタグによる Instagram 投稿
- #いなざわふおと（一般用） 投稿件数:153 件
- #いならぼ（ラボ活動用） 投稿件数:151 件
- <いずれも 2022 年 2 月 9 日時点>



プロジェクト8 「いなざわ観光まちづくりラボ共同企画 ローズ倶楽部イベント」

名古屋のシニア活動団体「ローズ倶楽部」が主催するイベント・講座を「いなざわ観光まちづくりラボ」と共同で実施することで、稲沢市への観光誘客に繋げるプロジェクト。

※ローズ倶楽部とは、(株)中日メディアブレンが毎月発行するシニア向け中日新聞折込み情報誌「ローズ」の読者会員組織。会員数は約2,000名で、年間100回以上のイベント・講座を主催している。

【2021年度の活動実績】

◆「信長が残した謎に迫る歴史探訪と座学」を開催。

＜開催日＞ 2021年4月26日

＜開催場所＞ 勝幡城跡、總見院(清須市)、長光寺

＜内容＞ 信長その生誕と没(散策・座学)

＜参加者＞ 48人

◆「稲沢フルーツ園で青パパイヤの収穫体験と料理教室」を開催。

＜開催日＞ 2021年5月10日

＜開催場所＞ 稲沢フルーツ園

＜内容＞ 園内見学、青パパイヤ収穫体験、料理教室(青パパイヤの酢漬け等)

＜参加者＞ 23人



プロジェクト9 「稲沢まるごとイルミネーション」

稲沢市に縁のあるLEDを活用し、市民や企業等の連携により市内全体をイルミネーションで彩ることで、「冬の稲沢に人々が集う場所を作る」「市民のまちへの愛着を増やす」「市内へ通勤・通学する人々に稲沢市との接点を持ってもらう」ことを目指すプロジェクト。

【2021年度の活動実績】

◆「2021 稲沢イルミネーション」の開催協力

＜開催期間＞ 2021年11月6日～12月25日

＜開催場所＞ 国府宮参道(メイン)、名古屋文理大学体育館(サテライト)

＜来場者数＞ 21,000人(期間中)

＜主な実施イベント＞

・星川楽器マラソンコンサート&キッチンカー

・ストリートピアノ

・「みんなで灯そう幸せの光」(名古屋文理大学・愛知文教女子短期大学の学生が考案)

- ・「チェキで思い出を撮ろう」 (同上)
- ・「医療従事者へ感謝を送ろう」(同上)
- ・プロジェクションマッピング (名古屋文理大学情報メディア学科の学生が企画・制作)
- ・Instagram フォトコンテスト



🍂 その他 (進行中のプログラム)

プロジェクト 10 「尾張国分寺跡&矢合から 歴道ウォーク」

“奈良時代の尾張国分寺跡”、“鎌倉時代の矢合の植木”、“江戸時代の美濃路”といった市内の史跡を巡る「歴道ウォーク」イベントを企画することで、歴史を通じて稲沢市の魅力を発信していくプロジェクト。



プロジェクト 11 「“稲沢・サリオパーク祖父江”を世界へ！」

稲沢市の魅力の一つである「サリオパーク祖父江」をフィールドとして、スポーツや自然体験を通じて地域の活性化を図るプロジェクト。



プロジェクト 12 「稲沢グリーンツーリズム」

稲沢市の代表的な産業である植木をメインに、矢合観音を始めとする矢合地区周辺の魅力を体感できるツアーを企画することで、地域内の経済効果を生み出し、稲沢市の活性化を図るプロジェクト。



プロジェクト 13 「稲沢農業ツアーリング事業」

市内にある特徴的な農園を回るバスツアーを企画することで、稲沢市の多彩な農業を市内外の人々に知ってもらおうとともに、農業支援に繋げるプロジェクト。農園同士の連携によるイノベーション創出と新たな6次産品の開発の契機となることを目指す。



プロジェクト 14 「稲沢市初の『国宝』を誕生させるプロジェクト」

市民、関係団体、行政が一体となり、重要文化財(当初候補:長光寺の「鉄造地藏菩薩立像」と「地藏堂」)の『国宝』指定に挑戦することで観光まちづくり活動の具現化を図り、シビックプライドの醸成と「歴史・文化都市稲沢」の価値向上を目指すプロジェクト。



プロジェクト 15 「興化山長光寺 臥松水蘇り」

稲沢市六角堂の長光寺は多くの文化財を有し、境内には織田信長が愛飲したと伝わる井戸「臥松水」が残っている。この臥松水を市民の手で現代に蘇らせることで、稲沢市の新たな観光資源にしていくプロジェクト。



(3) 成果指標の達成状況

成果指標						
項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 ^{※2}	目標値 (2022年度)
メンバー数	31 ^{※1}	52	55	60	70	100
プロジェクト 実施数	0	4	9	14	17	10

※1：稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議のメンバー数

※2：2022年2月末時点

3 2021年度の取組(アクションプランの進捗状況)と今後の方針について

⇒ 資料2「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)アクションプラン進捗状況【2021年度実績】」のとおり。

4 まとめ

新型コロナウイルス感染症は、2021年度も引き続き国内の社会経済活動に大きな影響を与えました。度重なる緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用を受けて、本市においても、主要な祭り・イベントが相次いで中止又は縮小開催に追い込まれ、感染拡大防止に伴う行動自粛要請等もあって、観光面で深刻な影響を受けました。

その結果、稲沢市観光まちづくりビジョンで掲げる成果指標「年間観光入込客数」は昨年に引き続いて減少、参考指標である「市内観光消費額(一人当たり)」も、調査対象の違いはあるものの、コロナ禍前の2019年と比較して大幅に減少しています。

このように観光振興に取り組む上で非常に厳しい1年となりましたが、本市では、感染症の存在を前提としたウィズコロナ期の観光施策として、稲沢市観光協会を中心に、地域の関係機関・団体、いなざわ観光まちづくりラボや観光ボランティア、旅行事業者など様々な主体と連携し、「い～な稲沢♪まるごと観光展」の開催、「い～な稲沢♪知ろう!楽しもう!稲沢の魅力」体験プランや市内・近郊の地域資源を深掘りした日帰りバスツアーの実施など、観光まちづくりに対する市民意識の醸成や近隣エリアからの誘客を主眼に置いたマイクロツーリズム(近場観光)の取組を進めてきました。

また、稲沢市観光協会公式 Instagram アカウントや稲沢市キャンペーン・レディー Instagram アカウントによる稲沢市の魅力情報の発信、市民と共に市内の飲食店や特産品の魅力を発信する Instagram 投稿キャンペーン「#いなざわグルメ」

の実施、稲沢市観光協会公式 YouTube チャンネルでの市内在住ユーチューバーと連携した地域資源の魅力動画配信など、オンラインを活用した情報発信にも積極的に取り組みました。そして、これらと連動する形で稲沢市観光協会公式 WEB サイトの掲載情報の充実に努めた結果、当サイトへのセッション数は 2021 年に 128,863 件となり、前年の 76,573 件から大幅に増加しました。



新型コロナウイルス感染症の影響は、当初の予想を大きく上回る長期化の様相を呈しています。収束に向けた見通しも依然不透明な状況にありますが、観光まちづくりの推進は人と人との交流を生み、地域の活性化に欠かせないものです。感染収束後（アフターコロナ）の観光振興に繋げるため、歩みを止めることなく、地域の賑わいと活力の回復を目指し、引き続き取り組んでいきたいと考えます。